

～平成25年度図書館司書専門講座を実施しました～

《6月17日（月）～28日（金）》

「まちづくりの中核となる図書館をめざして」をテーマに、全国各地から47名の受講者が社研に集い、講義、事例研究、シンポジウム、現地研修、演習等を通して、社会教育施設としての図書館の役割や、司書の専門性等について学びました。

1日目：6月17日（月）

基調講義「生涯学習社会における図書館の役割」

筑波大学名誉教授 山本 恒夫

学習の入り口での支援、学習活動そのものについての支援、学習成果の活用という学習の出口での支援など、学習プロセスに即した生涯学習支援の在り方についてご講義いただいた。地域の活性化や住民を支援する情報拠点としての図書館の役割や司書の専門性、今後の方向性などについて理解を深める時間となった。



受講者の声

これまででは、図書館サービス単体として利用者と図書館の関係を考えていたが、生涯学習の中での図書館の果たすべき役割を知り、視野が広がった。

交流プログラム「社研カフェ」

受講者同士の情報交換、今後も継続できるようなネットワークづくりの機会となった。



2日目：6月18日（火）

行政説明

「図書館関連法令、図書館行政の動向、図書館の設置及び運営上の望ましい基準等」

文部科学省生涯学習政策局社会教育課図書館振興係長 松井 佳奈江

図書館関連法令や国の施策等についてご説明いただいた。また、平成24年12月に改正された「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」についても解説していただいた。

受講者の声

・現在直面している課題に直結していたため、大変参考になった。

講義「図書館サービスの論点整理」 青山学院大学人間科学部教授 小田 光宏

ビジネス支援、インターネット端末の提供など新しい図書館サービスの登場や、資料の配送、図書館活用講座の実施など従来から行われている活動の変質等、図書館サービスの変化とその背景等についてご講義いただき、年代ごとに議論されてきた論点について理解を深める時間となった。



3日目：6月19日（水）

講義「電子書籍提供サービスと公立図書館」 筑波大学図書館情報メディア系教授 逸村 裕

情報化社会と図書館、図書館における電子書籍サービスの現状等についてご講義いただいた。物心ついたときからインターネット、電子情報源を用いた環境にいる人が増加している現代においての図書館の役割や、図書館システムの在り方等について考える視点をご提示いただいた。

講義「図書館資料の収集と情報提供」 和歌山大学特任教授・附属図書館長 渡部 幹雄

図書館資料を収集する際の、利用者や地域社会から遊離しない収集方針、計画の策定、資料の水準維持への仕組みづくり等についてご講義いただいた。基盤となる資料の収集と見せ方、図書館の展開に必要な地域の分析を踏まえた戦略的な資料、住民と築く資料群の形成など利用者が魅力的と感じる収集資料の工夫等についてもお話しいただき、図書館における資料収集の視点、情報提供の在り方について理解を深める時間となった。

事例発表・講義「利用者に応じた図書館サービス」

講師 大阪教育大学教育学部教授

堀 薫夫

事例発表①「だれでも、どこからでも、利用できる図書館を目指して」

大分県立図書館サービス課長

後藤 秀一

事例発表②「地域の要求に応える図書館」

鳥取県日野町図書館長

松田 暢子

事例①：大分県立図書館における高齢者向け宅配サービス、おすすめ絵本・育児書宅配サービス、障がい者向け宅配サービスなど、来館が困難な県民へのサービスの取組についてご紹介いただいた。

事例②：鳥取県日野町図書館における子どもの読書環境を整える取組、学校図書館の活性化と連携の取組等についてご紹介いただいた。

講義：各事例を踏まえながら、図書館における高齢者サービスの動向、高齢者の図書館利用と読書活動の特徴、ポジティブエイジングの視点からみた、図書館における高齢者サービスの実践等についてご講義いただいた。

受講者の声

日々の業務の中で、高齢の利用者が増えてきているのは実感しており、切実な問題として受け止めた。二重構造のサービスと、高齢者の生活そのものの研究の重要性を考えさせられた。

5 日目 : 6 月 20 日 (木)

シンポジウム「様々な運営体制における図書館司書の役割」

コーディネーター	立命館大学文学部教授	湯浅 俊彦
シンポジスト	東京都調布市立図書館長	小池 信彦
	東京都千代田区立千代田図書館 ゼネラルマネージャー	菅谷 彰
	三重県桑名市立中央図書館長	安田 憲一

いわゆる直営の図書館、指定管理者制度を導入している図書館、PFI手法を導入している図書館の、それぞれのお立場にあるシンポジストにより、図書館運営の実際、図書館司書の役割や専門性等についてご討議いただいた。それぞれの運営体制のもとに取り組みられている実践は、多くの示唆を含み、図書館運営の様々な視点をご提示いただいた。

コーディネーターの湯浅講師からは、導入時に、「物事を客観的にとらえること」の大切さについてお話し頂き、シンポジストの発表を聴く視点を提示して頂いた。受講者からの発言も引き出しながらシンポジウムをコーディネートしていただいた。



受講者の声

- ・ 図書館運営に対して、違う視点から課題をとらえることができた。
- ・ 偏った情報や意見に流されず、広く情報を収集し、自分の考えをもつことの重要性をあらためて感じた。

現地研修

- ・ 代官山 蔦屋書店
- ・ 東京電機大学総合メディアセンター
- ・ 武蔵野プレイス
- ・ 市川市中央図書館
- ・ 川崎市立中原図書館



東京電機大学総合メディアセンター

市川市中央図書館

川崎市立中原図書館

様々な運営形態について理解を深めるため、指定管理者として図書館運営に携わっている民間企業、生涯学習の様々な機能をもつ複合施設、地域開放を視野に入れた大学のメディアセンター等特色ある施設を視察先とした。現地では、担当者から施設の特色や運営上の工夫などの説明を丁寧にいただき、図書館サービスの実際について理解を深める時間となった。

6 日目 : 6 月 21 日 (金)

事例発表・講義「地域との連携による図書館運営の実際」

講師	昭和女子大学特任教授	大串 夏身
事例発表①「地域づくりで読書のまちづくりを推進」	北海道恵庭市立図書館 奉仕主査	黒氏 優子
	主任主事	本間 洋一
事例発表②「交流と創造を楽しむ文化の拠点としての図書館」	NPO 法人オブセリズム設立準備室代表	花井 裕一郎

事例①：北海道恵庭市立図書館の読書コミュニティという理念のもと実践している、ブックスタート事業やボランティアとの協働の取組、また、市民の意見を反映させながら制定した「恵庭市人とまちを育む読書条例」等 についてご紹介いただいた。

事例②：小布施町立図書館における地域住民との連携や「まちじゅう図書館」の取組についてご紹介いただいた。既存の図書館の姿やサービスについて、発想を変え再構築された様々な実践など、図書館の可能性を広げる視点をご提示いただいた。

講 義：各事例を踏まえながら、地域との連携の意義、方策などについて、具体的な事例や諸外国の取組などを示しながらご講義いただいた。



受講者の声

- ・ わくわくするような図書館づくりの話聞き、元気が出た。
- ・ 自分の図書館に戻ってからすぐに実践してみようと意欲がわいた。

「図書館と危機管理」

立命館大学文学部教授 常世田 良

来館者に関連するもの、職員に関連するもの、資料やデータ・個人情報に関連するものなど、図書館が直面している様々な危機管理の内容や対応について、具体的な場面を想定しながらのマニュアル作成等を通して、実践的に学ぶ時間となった。



6 日目：6 月 24 日（月）

事例研究「図書館の経営と評価」

助言者 慶應義塾大学文学部教授 糸賀 雅児
事例発表①「図書館活動の点検・評価」
東京都町田市立中央図書館 奉仕係担当係長 海老澤 幸子
事例発表②「図書館サービスの評価指標と運営状況の評価」
埼玉県立浦和図書館司書主幹 高橋 勉

事例①：東京都町田市立図書館の評価の目的を、①図書館活動・事業の適切な運営のため、②説明責任の履行、③PDCA というマネジメントサイクルに基づいた職務遂行とし、実際に取り組んでいる評価の方法等についてご紹介いただいた。
事例②：埼玉県立浦和図書館のサービス評価の導入の経緯、重点目標に対する評価指標や達成目標値の設定などについてご紹介いただいた。
協 議：各事例についての事前課題を基に、疑問に思ったことなどについて協議を行った。
助 言：各事例を踏まえながら、図書館サービスの「改善」「向上」に結びつく経営評価の在り方等についてご助言いただいた。

講義・演習「図書館における評価」 慶應義塾大学文学部教授 糸賀 雅児

図書館経営を改善するための評価の意義や具体的方策などについて、講義や受講者との協議を通して様々な視点についてご提示いただいた。図書館評価の基本知識を習得し、図書館経営改善に結びつけるためのミッション評価の手法について理解を深める時間となった。



受講者の声

大変刺激的な講義だった。「評価の方法を知りたい」「分析の方法を知りたい」と考えていたが、そこからいかに適切なミッションを見出すが重要だと感じた。

7 日目：6 月 25 日（火）

講義「図書館と著作権」 文化庁著作権課管理係・流通推進係長 檀上 容子
図書館司書が感じている著作権に関する疑問等を踏まえながら、図書館資料の複製における留意点等について、著作権法をもとにご講義いただいた。

講義「図書館と障害者サービス」

東京都日野市立中央図書館主任 中山 玲子
においのお出の本、触れる本などの実物をご紹介頂いた。図書館利用に障害のある方への具体的な接し方、DAISYの使い方、今後の障害者サービスの課題等についてご講義いただいた。

講義「図書館サービス計画の企画・立案の基本的視点」

神奈川県座間市立図書館主幹（司書） 葉山 敦美（三村 敦美）
図書館経営やサービス計画策定における着目すべき内容について具体例を示しながらご講義いただき、図書館サービス計画の企画・立案の視点と手順について理解を深める時間となった。

受講者の声

・ポイントをまとめて聞くことができ、著作権について頭の中を整理することができた。

・障害者サービスを利用する人がどういう点で不便さを感じているのか、考えるきっかけをもらった。

・日々変化している社会環境の中で、図書館サービスの本質について考えることができたとともに、演習にのぞむための準備ができた。

7 日目午後～9 日目：6 月 25 日（火）～27 日（木）

演習Ⅰ～Ⅴ「図書館サービス計画の企画・立案」

神奈川県座間市立図書館主幹（司書） 葉山 敦美（三村 敦美）
千葉県浦安市立中央図書館奉仕第二係長 長田 薫
東京都立中央図書館情報サービス課調査支援第二係主任 余野 桃子



グループごとにモデル市町村を決定し、地域条件の分析を行い、現状と課題を洗い出した。そのあと、「図書館資料の構築と管理に関する計画」「地域資料の収集・提供等に関する計画」、「レファレンス・サービスに関する計画」、「課題解決・地域支援サービスに関する計画」「学校・学校図書館との連携に関する計画」、「児童・青少年へのサービスに関する計画」、「図書館利用の広報戦略に関する計画」を立案し、グループ発表及び全体発表を行った。

10日目：6月29日（金）

講義「情報化社会と図書館の役割」

長野県伊那市立伊那図書館長 平賀 研也

ご自身の経験を踏まえつつ、伊那図書館での取組等についてご紹介いただき、これからの図書館、図書館司書として何ができるのか、求められる役割や専門性はどのようなものなのかということについて、グループワークも交えながらご講義いただいた。



受講者の声

図書館の可能性を感じつつ、目の前の人やことと向き合いながら、試行錯誤していくことが必要と感じた。

受講者の声

- ・沢山の刺激と反省に満ちあふれた充実した2週間だった。この講座で感じた講師陣や仲間の情熱、得たアドバイスを活かして、地域の方々に愛される図書館になるように尽力していきたい。
- ・全国の職場に戻っていった仲間たちが、それぞれ頑張って課題に向き合う姿を想像しながら、明日からの仕事に向き合おうと思う。



～講座における学びとつながりが、各地域で活かされますように～